

都小道研だより 第 9 号

指導者研修会資料 所信「研究は厳しく、人間関係は温かく」 会長 吉田 友信

1 令和6年も残り6日間。一年間、大変お世話になりました。

- 本校は、昨日が第2学期の終業式でした。児童の下校を完了させた後、職員室に戻ってきた教職員が相互に「2学期も終わったね。」と明るく喜び合う声が、校長室に次々と届いてきました。それだけ、この2学期が教職員一人一人にとって長く厳しい日々の連続だったことと、改めて教職員に感謝したところです。また、学期途中の問題や課題は数々あれど、「終わりよければ全てよし」のように、心配事を大きく持ち越すことなく年越しができそうな喜びと安堵を感じながら、昨夜は就寝させていただきました。
- 都小道研においても然りです。4月には新体制で不安いっぱいの中で動き出し、実際には6月17日「第62回定期総会並びに講演会」における「部員総会」が都小道研としての本格的な始動となりました。本年度は、前例踏襲型ではなく、様々な感染症等により中止や制限を余儀なくされてきた状態を徐々に解除し、一つ一つの活動や事業の意義を見直し協議することから始めることも多くありました。役員・理事・部長の皆様には、各事業の推進、各部の研究推進にと大きなご負担をお掛けしました。しかし、意義や目的を見直すよい契機にもなり、都小道研の組織としても大きな意義となりました。誠にありがとうございました。新年も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

2 45分間のよりよい授業のために。順調な準備が進捗しています。

- 1月27日「第62回臨時総会並びに研究発表会」の1か月前になりました。本日は本番当日を想定した、指導者研修会及び会場実地踏査の意味合いを含めてよろしくお願いいたします。会場校児童・教職員・都小道研にとってそれぞれに大きな収穫が得られることを目指して進めてきています。そのために三位一体となった取組が不可欠です。現時点で良好な経過をたどっていることを報告します。

○ 各部長の皆様のご適切なご指導により、都小道研各部世話人から会場校各学年主任への電話連絡、都小道研授業者から会場校学級担任への電話連絡・情報共有を経て進めることができています。長年の課題が大いに前進しました。誠にありがたいことです。

45分間の検証授業で最優先すべきは言うまでもなく、会場校児童にとって年間35時間の中の大切な1時間であることを今後も強調し続けたいと考えます。同時に各部の研究成果を検証すべき位置付けの授業であるため、各部・授業者にとっても大切な1時間でもあります。同時に45分間のために十分な準備をして参会者に授業を公開する会場校にとっても授業力向上につながる大切な1時間でもあります。

最初は、遠慮のためと思われそうですが、電話連絡のみで打合せを終え、「それでは本番によろしく」という流れも見られましたが、授業者と児童が初対面でよい授業が展開される可能性は低く、再度役員・理事の皆様にご連絡を入れ下記のように周到な準備を進めていただく流れとなりました。

授業者の先生方は、年末年始のご多用の中、謙虚で丁寧に児童を思う気持ちをもって事前訪問を行い、学級児童と検証授業本番でよい授業を展開する下地を整えることができたと思っております。ありがとうございます。本番もよろしくごお願い申し上げます。

○ 都小道研授業者来校について

12月20日(金)【事業部】大 楽 美保子 主任教諭 (小金井・小金井第一小)

【調査部】安 村 侑 記 主任教諭 (世田谷・松丘小)

12月23日(月)【研修部】菅 原 梓 主任教諭 (町 田・鶴川第二小)

【研修部】奥 村 雅 江 主任教諭 (練 馬・石神井西小)

1月16日(木)【研究部】菊 地 悠 教 諭 (北 野・滝野川第五小)

1月17日(金)20日(月)【研究部】大 瀧 隼 一 主幹教諭 (板 橋・板橋第六小)

※ 「1番は会場校児童・会場校のために」の姿勢で周到な準備を進めて参りましょう。

そのことが都小道研全体の発展に結び付いていきます。どうぞよろしくお願いいたします。